

SOPHIANsNow



メンストが生まれ変わります

今、メンストは大規模工事中。

来年8月まで、二期にわたって工事を行います。

この工事で、メンストは大幅にリニューアルされます。

バリアフリー化し、学生が集うテラスの整備も行うとのこと。

来年の夏、四谷キャンパスの新しいシンボルになるようなメンストが誕生します。



レンガ調に舗装されたしゃれたメンストに



学生が集うテラスも

#メンスト 確かに、メンストは私たちの“居場所”だった

「メンスト」は、ソフィアン限定の言葉です。

私たちはなんの不思議もなくこの言葉を使っていますが、一般にはほとんど通じません。

でも、私たちは間違いなくメンストとともにありました。

メンストで友人と会う。

メンストでのイベント、集会に参加する。

メンストで、次の授業までの時間をつぶす。

そのメンストでは、これまでいろいろなことがありました。

1号館ができたのは1932年ですから、メンストという言葉が誕生してから90年くらいの歴史があるはずです。たぶん、SJハウスの神父たちが1号館入口に通じる道をメインストリートと呼ぶようになり、学生がそれを略してメンストというようになったのではないのでしょうか。



教皇の来校に学生たちが大歓迎（大学撮影）

Ⅰ メンストを歩く教皇フランシスコ

教皇フランシスコがメンストを歩かれたことは記憶に新しいところです。2019年11月に来日した教皇は、被爆地である広島や長崎を訪問、また天皇陛下や当時の首相とも面会、東京ドームでのミサなど多忙なスケジュールをこなしたあと、離日直前に来校。メンストで多くの学生たちの歓迎を受けました。



メンストを埋め尽くしたソフィアンが校歌の大合唱
(2013年、大学創立100周年のASF)

メンストでは、さまざまなイベントも行われています。特に5月の「オールソフィアンの集い（ASF）」ではステージを設置、午前中から最後のグラウンドフィナーレまで、ステージ上で繰り広げられる学生、卒業生のパフォーマンスに多くの人が詰めかけます。

特に、2013年の上智大学創立100周年の時は、最後に校歌をいっしょに歌おうと、メンストをぎっしりと人が埋め尽くしました。

Ⅱ 学生運動の舞台にもなったメンスト

メンストはその長い歴史の中で、いろいろな表情を見せてきました。戦時中は、勤労奉仕に向かう学生が行進したこともあります。上智でも吹き荒れた学生運動の中では、メンストでデモも行われました。でもこれも上智の歴史であり、メンストが経験してきたことでもあります。

そのメンストが今、大きく変わろうとしています。この新しいメンストはどのような思い出を作るのでしょうか。



1937年、校旗を先頭に勤労奉仕に出発
(上智大学五十年史より)



学生運動が吹き荒れた時代にはメンストでデモも
(1970年の卒業アルバムより)

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会とソフィアン

コロナ禍という未曾有の状況下で開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会。感染者の増大により無観客となり、開催前にはネガティブな反応が多く見受けられましたが、選手たちのすばらしい活躍や大会関係者、ボランティアの心温まる活動により、大会が進む中で徐々に盛り上がりを見せていきました。そうした中で多くのソフィアンがその国際性あふれる能力をいかんなく発揮し、大会を支えていました。



1,000 人を超えるソフィアンが何らかの形でこの大会に関わっていたということで、たとえば、内閣官房大会推進本部事務局総括調整統括官、組織委員会理事、同委員会国際渉外課課長補佐、JOC（日本オリンピック委員会）常務理事兼事務局長、同前事務局長、そして野田聖子（1983 外比）自民党パラリンピック担当など、実に多くの上智の卒業生がこの大会を支えていました。ボランティアとして大会を陰で支えたソフィアンも大勢いました。そのうちの何人かに、あの大会を振り返ってもらいました。

組織委員会の“ソフィア会”

井川新(2006 外葡)

大会との関わりは、2015 年 4 月に勤め先の電通で、東京 2020 大会組織委員会マーケティング局に出向したところから。当初、組織委でアカウントマネージャーと呼ばれる、スポンサー企業と向き合う窓口の担当になりました。着任早々、新国立競技場の問題や、大会エンブレム撤回、そして、追い込みをかけるように出向元の電通で起きた残業問題…。嵐のような日々が続きました。

そんな中、力を貸して下さり引っ張ってくださったのが、当時、JOC から出向していた細倉浩司マーケティング局次長（現 JOC 常務理事兼事務局長）でした。誰よりもストイックに働き、いつも厳しい雰囲気、なかなか近づき難かったのですが、なんとソフィアの大先輩であると知り、それをきっかけにさまざまなことをご指導いただきました。

組織委に入り時間を経て、組織委にソフィアファミリーが多いことに気づきます。そこで、組織委の中で「ソフィア会をやろう」ということになり、会を重ねて、一気に組織委の色々な部署に味方を作っていた気がします。



そして 2018 年 8 月には、ブランド開発およびベニュー統括チームの課長を拝命。より大会運営ど真ん中の部署に移ります。東京大会を彩るブランドプロパティを開発するのがミッションでした。エンブレム、マスコット、コアグラフィックス（これを元に大会装飾が作られる）、ピクトグラム、



トーチ、メダル、ボランティアが着るユニフォームなどなど、皆さんがテレビや街で見ていただいた、その開発現場の裏には私のいた部署がありました。

それを終えると、次の、そして最大のミッション、その完成したブランドプロパティをオリパラ合わせて 43 会場の各競技会場にインストールするという史上空前のプロジェクトを完成させるということに取り組みます。2020 年 2 月にはギリギリ、ベニューの大会ルック計画を組織委、東京都、国と合意をすることができ、「さあ、ここから」というときに、大会延期の決定。

かなり落ち込みましたが、ひたすらに、1 年後、実現させるんだという思いを強く持ち、今まで以上に丁寧に仕事を積み重ねて行きました。そして、とうとう、開会式にたどり着いた時、本当にここでは書き切れないくらい苦労があった分、信じられない位の涙が溢れて来ました。ただ、開会しただけなのに。

開会しても、結局バタバタは続き、一気にまた現実に戻され、9 月 5 日のパラリンピック閉会式までは完全に息つくことはできませんでした。大会が終わり、ここまでの思い出が走馬燈のようにめぐる日々で少し抜け殻になっています。



東京 2020 大会期間中は、まさに選手村一色の生活でした。

大会スポンサー企業で、2014 年から 7 年という長期間にわたって選手村の取組みを続けてきたのですが、特に 1 年延期を経ての開村直前の準備期間は本当に長く感じました。

コロナ禍での大会開催については多方面から色々な声が聞こえてきましたが、関係者・スタッフは迫ってくる開村予定日に向けて、とにかく作業を進めるしかありません。一方で大会関連行事が次々と中止となる中で、ギリギリまで「本当に大会開催されるのか？選手を受入れるのか？」という不安も正直ありました。

そんな中で大掛かりなセレモニーもなく無事(?)開村となったのですが、開村日以降、少しずつ選手団の入村が始まると、各国の旗や垂れ幕、さまざまな装飾が宿泊棟に施され、街がどんどん色づいていく様子を目の当たりにして、抱いていたモヤモヤとした気分も次第に吹き飛んでいきました。選手たちが村の中を練り歩き、話し声が聞こえるようになると、それまでは、「生活する人がいない、まるで眠っている」街が、選手村として躍動し始めた！まさにそんな感じでした。

オリンピック開会式当日も選手たちがバスで移動するのを見送ったのですが、選手達の本当に楽しそうな姿を見て、「何て贅沢な光景なのだろうか。オリンピックが開催できてほんと良かった」とスタッフ皆で感動していました。まさに至福の瞬間でした。

大会スポンサー企業のメンバーとして、選手村では本当にさまざまな施設・設備に携わっていたので、大会中はよはず相談窓口といった感じで、まさに「選手村にいること自体が仕事」みたいな状態でした。選手村の敷地は約 44ha あり、例えてみると、毎日ディズニー

ランドを歩き回っているようなイメージです。日陰の少ない選手村で夏を過ごすと、すっかり現場焼け状態です。

競技会場ではなかなか見ることができない、選手のリラックスした姿をみることができる場に居るとするのは本当に貴重な体験です。たとえば、日本では馴染みのある「マッサージチェア」を村内に設置したところ、これが想定以上に好評で、常に順番待ちという状態でした。リピーター含めて毎日 100 人以上の選手・関係者に利用してもらったのですが、体格の良い(ちょっといかつい)選手が気持ちよさげに寝落ちしている姿を初めて見ましたが、間違いなく「日本のおもてなし」に満足した瞬間だと確信しました。

大会が始まるまでの準備期間は、本当に長かったのですが、いざ始まるとあっという間に終わってしまったという印象です。パラリンピック閉会式に向かうバスを見送った時は、本当に泣きそうでした。ほとんどの競技が無観客となり、当初想定した、「街全体が盛り上がるオリンピック・パラリンピック」ではなかったかもしれませんが、間違いなく、選手村には、これまでの大会同様に真剣に競技に取組み、選手村の生活を楽しむ選手たちの姿があったのです。そしてそんな選手村で仕事ができただけでなく、本当に贅沢で幸せな体験でした。ありがとう東京 2020 選手村！



車いすバスケットの競技スタッフとして 川上和哉(1984 法法)

以前から携わってきた東京マラソン財団からボランティア面談員に推薦いただき、2018年12月の説明会で私のボランティア・ジャーニーが始まりました。翌年2月ごろから始まった有楽町スポーツスクエアでのボランティア向けイベントでの説明役です。その時には、実施までにこれほど長い時間がかかり、これほどいろいろなことが起こるとは夢にも思ってもいませんでした。



紆余曲折を経て迎えたパラリンピック、2017年の総理大臣杯のお手伝いをしたご縁でお声掛けいただいた車いすバスケットボールの競技スタッフとして参加しました。

選手のお役に立ちたいという動機で希望した競技スタッフ。担当は有明アリーナでの「スポーツ・インフォメーション」チームでした。一言で表すと大会本部と各国選手の接点のような役割で、ルーティンとして決まっているのはチームへの試合映像を記録した USB を手渡すことくらいで、その他は各種の問い合わせ対応がメイン。といってもマニュアルがある訳ではなく、受けた質問について自分たちで調べてその回答を基に Q&A 集を作ることから始めるような手探り状態。コピー用紙に手書きのマニュアルは、最終的に 20 ページ分くらいになりました。

そんな業務の傍ら、「せっかく世界中から来てくれる選手たちに楽しんでもらおう」と各国の国旗の折紙で鶴を折ったり、事務連絡用のホワイトボードに有明アリーナの全景と選手へのメッセージを描き(書き)込んだりして、殺風景だったサイトが日に日にカラフルに。これには本部も想定外だったようで、毎日のように視察に訪れては「いいですね」と声をかけてくださいました。

また選手への食事の手渡し拠点にもなっており、各国の事情やお国柄が垣間見えて楽しかったです。コロナ関連で非常に厳しく管理されている国はミニマムの注文で、かつ取りに来ないこともありました。一方では食事が待ちきれず選手一人ひとりが勝手に我々のサイトの中にまで乗り込んで来て余っているほかの国の分まで欲しいような国もあり、対策としてバリエーションを築かなければならないような事態もありました。

大会が始まったころは厳しい残暑で、太陽を恨めしく思いながら豊洲の駅から木陰を伝いながら通った道も、終盤は秋らしくまた雨も多くなり少し寂しく感じながらもメンバーと一緒に活動できるのが楽しみで通いました。

日本チームは男女とも決勝リーグに進出、特に男子は決勝でアメリカ相手にあと一步で勝利という大活躍を演じました。そんな感動を近くでボランティアメンバーと一緒に経験できたのは、1 年延期されオリンピックでの活動がなくなってしまった不運を差し引いてもとても貴重な体験でした。

選手村ネイルサロンの通訳ボランティア 川田リカ(1983 外葡)

オリンピック開会式前の7月13日からパラリンピック閉会式後の9月8日までの約2ヵ月間、オリンピック選手村のビレッジプラザ内にオープンしたネイルサロンで、上智大学の卒業生9名、学生20名が通訳ボランティアとして活動しました。

ネイルサロンは午前9時から午後9時までの営業。通訳ボランティアは、前半2名後半2名のシフトで交代しての活動でした。オリンピック選手がネイルをするのだろうか？と少し心配したのも束の間、ネイルサロンは連日大盛況で、一時は行列ができるほど。ネイルサロンにはブースが4卓あり、すべてのお客様の通訳を担当したので、お客様が集中したときは、あちこちから呼ばれてかなりの忙しさでした。

オリンピック選手といえども、一部の競技を除けばネイルは認められているようで、世界各国の選手たちが連日来店しました。選手たちは基本的には、選手村と競技場の往復だけで、外出は許されていないので、ネイルサロンで爪を整え、美しくマニキュアをしたらえると、テンションも上がったようです。自国のナショナルカラーや国旗の色、デザインで美しくマニキュアされた爪を、自分のSNSにアップしている選手も多く、たくさんいいね！を獲得していました。また、ネイルサロンで可愛いデザインネイルをしたり、金メダルのネイルシールを貼った選手たちが、本当に金メダルに輝き、

私たちが嬉しい驚きにあふれました。

通訳ボランティアの仕事は、来店した選手を迎え、会計、フォーム記入の後、各ブースに案内します。爪の長さ、形、色、デザインの希望を聞き、ネイリストに伝えます。ネイルの施術は1時間ほどかかりますので、話し好きの選手は、通訳の私たちとおしゃべりすることもあります。自分の競技の話、家族の話、日本の印象など、ときには自分のSNSやスマホのカメラロールの写真を見せながら、説明してくれます。

オフの時間の選手たちは、明るい選手、穏やかな選手、おとなしい選手、いろいろな選手がいらっしゃいますが、テレビでその選手たちの競技を見ると、スイッチの入った選手たちは別人のように集中していて、凛と美しく輝いていました。もちろん私たちは、ネイルサロンに来店した選手たちを、全力で応援しました。



ボッチャ競技のボランティア

鈴木孝(1970 理電)

約25年前、長野の冬季五輪に初めての単身赴任で現地に赴き、本番ではボブスレー・リュージュ競技のIT部長を務めました。その後も2回海外での冬季五輪に応援に行き、長野での出会いに感激して橇競技の公式審判員の資格を取得、毎年クリスマス頃に開催された全日本大会に競技役員として勤めを果たしました。

そのため今回も、東京2020の招致が決まった段階で、何かのボランティアでお手伝いできればと思っていましたが、ある新聞にボッチャ競技の広告が出ていて、咄嗟にこの競技に関わろうと思い国内審判員の資格を取りました。今は地元のボッチャ協会にも属して、交流大会や普及に微力ですが、お手伝いさせて頂いています。

そんな関係でオリパラのボランティアの応募ではオリはダメでしたが、パラでは大会ボランティア(Field Cast)としてボッチャ競技に選ばれました。ある財団のパラのワークショップには積極的に参加し、ロンドンやリオの事例を勉強。そして新型コロナの感染拡大で1年延期になり、一時はオリパラ熱も冷めましたが、リモートでの英会話特訓や役割別研修などでやる気が蘇りました。

ボッチャ競技では参加選手は116名、25か国。障害の程度によりクラス分けがあり、BC1からBC4に分かれています。競技は個人戦が4つ、ペア戦が2つ、チーム戦が1つの計7つです。選手は全員が車いすで介助がつかます。

組織としては1. 競技運営、2. 会場運営、3. 会場整備があります。さらに、1. ではテクニカル系、サービス系に分かれます。

当方の担当はボッチャ競技のSID(Sport Information Desk)で前者に属します。



実際にパラの開会式は8月23日でしたが、当方のボランティアは22日が初日で最終が9月4日で都合、10日間勤め上げました。



SIDの仕事は裏方ですが、非常に重要な仕事です。

役割は一口で言うと、「各国競技者に対する各種情報提供と問い合わせ窓口」。具体的には、ビジョンボックスの管理運営、競技スケジュールの更新情報、試合結果の掲示、プロテスト受付、競技会場→選手村バススケジュールの更新情報、その他各種情報案内、ストレージの管理運営(SID分室)、リラクゼーションエリアの管理運営(SID分室)などです。

SIDのボランティアは総勢16名で当方が最年長、午前シフトと午後シフトに分けられて、各自の勤務日程が決まっていました。リーダー役の下ではその日の役割が決まります。理学療法士を目指している大学生もいて、皆さん積極的に体を動かしていました。そんな中、当方は出しゃばらず、仕事はこなす、のモードで老若男として接しました。全く年齢は関係ありません。経験がものを言います。

こうしてチームワーク良く大会を終えることが出来ました。

特にSIDは選手や関係者と身近に接しましたので、「おもてなし」の気持ちで笑顔で挨拶、声掛けで大会がより身近なものになりました。

今回のボランティアでは貴重な経験を務めることができました。期間も長く疲れは蓄積して終盤は大変でした。ただし、選手との交流は日に日に増してよかったです。

オリパラ後に、ボッチャを初めて知った人から「素晴らしかったよ」の声を聞くと嬉しく良かったと思いました。Boccia万歳です。今回のオリパラを機会に障害者との共生がうたわれています。日本はこの分野でも遅れているので、共生社会の実現に一歩でも進めばと願っています。

ソフィア会の最高議決機関

春と秋の全国代議員会レポート

ソフィア会は年に2回、春と秋にソフィア会の最高議決機関として全国代議員会を開催しています。今年は春季全国代議員会を5月22日(土)、秋季全国代議員会を10月16日(土)にそれぞれ新型コロナウイルスによる感染を考慮して14:00から電磁的投票およびオンライン併用形式で行い、2020年度事業報告・決算報告・監査報告、2021年度事業計画・予算案などを審議しました。



ウェビナーで大会に参加した代議員

春季全国代議員会、秋季全国代議員会とも、会長や発表者がソフィアズクラブに集合、多人数で使われるWeb会議システム「Zoomウェビナー」によって議事を進めました。両代議員会とも最初に鳥居正男ソフィア会会長が開会挨拶、続いて上智学院の佐久間勤理事長、上智大学の暁道佳明学長からリモートでご挨拶をいただきました。

春季全国代議員会

その後、5月22日の春季全国代議員会では、定めにより鳥居会長を議長としてまず定足数を確認。「代議員数504名、事前のWeb投票者数348名、はがきによる投票者数21名、投票者数合計は369名で代議員の半数253名を超えており、ソフィア会会則第16条の2により、すべての審議事項の決議に必要な定足数を満たしています」として審議に入りました。

審議事項は7つ。審議事項1の「新規代議員の承認」は茂木敬司役員選考委員会副委員長が、同2の「新規登録団体の承認」は上原隆一組織委員会委員長が事前配布した資料を表示しながら説明。続く審議事項3「2020年度事業報告・決算報告及び監査報告の承認」と審議事項4「2021年度事業計画及び予算案」については、前者を鳥居会長が、後者を大川成儀財務委員長が、またこの中でソフィア会奨学金基金残高報告については江波戸隆明総合調整委員会副委員長が画面共有の形で説明しました。ソフィア会公式行事であるASFとASCについても個別に会計報告。2020年度決算報告については、長村彌角監事が「適正に表示している」と監査報告を行いました。

その後、審議事項5の「会則の改定」は森総務委員長、審議事項6の「被顕彰者選考委員会委員の互選」は戸周夫前被顕彰者選考委員長、審議事項7の「役員選考委員会代議員選任委員の選出の件」は上原役員選考委員会副委員長が資料を示して説明。これらの審議事項については事前投票がすでに行われており、代議員会ではそれぞれの項目ごとに承認、議長一任、反対、保留の数字を表示、すべての議題が可決されたことが報告されました。

続いて報告事項として、30日に開催するASFについて、金谷武明2021ASF実行委員会副委員長・総指揮が視聴方法や見どころ

2020年度収支決算書 自2020年4月1日～至2021年3月31日

(単位:円)

項目	2020年度予算	2020年度実績
【収入の部】		
1 終身会費(同窓会費)	120,000,000	121,057,600
2 入会金収入	0	0
3 維持会費(運営協力費)収入	3,500,000	4,906,236
4 上智学院預け金利息	2,900,000	2,980,946
5 カード手数料収入	3,000,000	2,668,674
6 クラブ使用料収入(注1)	400,000	4,000
7 その他収入(ネットショッピングなど)(注2)	300,000	1,248,370
一般収入小計	130,100,000	132,865,826
8 積立金取り崩し金額(ソフィア会奨学金寄付)	100,000,000	100,000,000
9 積立金取り崩し金額(新型コロナ禍学生支援寄付)	50,000,000	50,000,000
収入計(a)	280,100,000	282,865,826
【経常支出の部】		
1 事務局費		
人件費	7,820,000	7,180,155
通勤費	810,000	220,280
業務委託費	430,000	422,400
会議費	550,000	309,842
通信運搬費	650,000	785,390
印刷費	500,000	356,488
消耗品費	1,040,000	631,599
備品費	0	0
機材使用料	3,550,000	2,172,708
渉外費	50,000	0
銀行手数料	200,000	242,615
その他費用	1,170,000	350,599
1 事務局費支出合計	16,770,000	12,672,076
2 事業費		
① 広報費(計)	(18,550,000)	(17,368,127)
会報印刷・その他費用	3,450,000	2,921,607
ウェブサイト費(ホームページ費)	4,100,000	3,446,520
未来募金・配送料見合	11,000,000	11,000,000
② ソフィアズクラブ(計)	(7,840,000)	(6,684,360)
クラブ人件費	1,600,000	1,513,600
クラブ通勤費	130,000	17,140
クラブ業務委託費	200,000	184,280
クラブ管理費(夜間)	3,360,000	3,090,395
クラブ水道光熱費	500,000	282,542
クラブ備品費	1,650,000	1,328,371
クラブその他費用	400,000	268,032
③ 奨学金(ソフィア奨学金)	108,000,000	108,000,000
④ 募金委員会費(維持会費を含む)	700,000	586,277
⑤ ASF運営費(注2)	3,030,000	956,937
⑥ ASC運営費(注3)	600,000	428,457
⑦ 地域・各種ソフィア会連携推進費(注3)	1,500,000	156,275
⑧ 国際委員会費	480,000	487,943
⑨ 学生支援事業(計)	(11,705,000)	(11,296,645)
寄付講座費	600,000	600,000
学生課外活動支援費	10,000,000	10,000,000
その他の学生支援費(ソフィア祭現役支援等)	600,000	600,000
キャリア支援委員会費	200,000	0
キャリア支援プロジェクト(注3)	265,000	96,645
その他のキャリア支援事業費(注4)	40,000	0
⑩ その他事業費(注3・4)	9,780,000	7,824,617
⑪ 学部学科同窓会支援費	2,100,000	1,121,900
⑫ 常設委員会費(役員選考委員会・被顕彰者選考委員会)	290,000	0
⑬ 社会貢献推進委員会費(注3)	50,000	28,570
⑭ オリピック・パラリンピック支援委員会費(注3)	183,000	50,000
⑮ ITインフラ支援費	1,650,000	1,335,400
⑯ 名簿管理費	520,000	517,522
⑰ 新型コロナ禍学生支援寄付	60,000,000	60,000,000
2 事業費支出合計	226,978,000	216,843,030
3 予備費	3,000,000	0
4 基金積立金額(s)	33,352,000	53,350,720
経常支出計(b)	280,100,000	282,865,826
当期収支(c=a-b)	0	0
積立金(純資産)		
期首積立額(d)	334,905,869	334,905,869
当期積立額(e=s)	33,352,000	53,350,720
当期収支差額の取り崩し(f=c)	0	0
当期積立金の取り崩し(g)	150,000,000	150,000,000
期末積立額(h=d+e-f-g)	218,257,869	238,256,589

(注1) ソフィアズクラブは、2020年度一年間を通して実質閉鎖状態でしたので、一時閉鎖した際の1団体のみ使用料収入となりました。
(注2) 2020年度は新型コロナ感染拡大の影響で「Net de ASF」としてオンライン(縮小型)で開催。運営費の支出額は956,937円となり、2,073,063円の予算残となりました。運営協賛金(広告収入、3社合計117万円)はASFのためであることに変更はありませんが、2020年度の実績では、全額未使用であったことから「その他収入」に計上しています。

(注3) 2020年度に実施を予定していました企画を、新型コロナ感染拡大の影響を鑑み、中止・延期、またオンライン配信(縮小型)で開催したことによる減少です。
(注4) 「学生支援事業・その他のキャリア支援事業費4万円」は、2020年度実績より「その他事業費(活躍する卒業生の情報収集)」に計上しています。

ろなどを解説。代議員会は予定通り進行し、定刻前に滞りなく終了しました。

秋季全国代議員会

10月16日の秋季全国代議員会でも議事に入る前に定足数の確認および報告、議事録作成人と議事録署名人の指名を行い、定足数については代議員数506名、定足数254名に対し、投票者（出席者数）353名により会が成立していることを報告。また議事録作成人については江波戸隆明常任委員を指名しました。その後、鳥居会長が議長となり議事を開始、最初に鳥居会長自らが活動報告を行いました。

鳥居体制のもと、ソフィア会は①楽しく気分のよい会、②多様性に富むチーム、③効率的な運営で無駄は排除、④身の丈の範囲でしっかり実行、⑤広く開かれた透明感溢れる組織、の5つを運営方針として掲げ活動してきました。2021年度前期は新型コロナウイルスによる制約があったものの、効率的な会議運営や将来ビジョンにかかわる活動の進展が見られました。また母校への貢献・現役学生支援を継続するとともに、上智大学・学院との協力・連携強化、オンラインを生かしたイベント展開、卒業生とのネットワーク強化などで

の実績を訴えました。

特に現役学生支援については、コロナ禍学生への緊急支援としてソフィア会予算から3000万円、卒業生個人・団体から1213万円を寄付。さらにソフィア会奨学金として18名の学生に595万円を給付、継続して学生課外活動支援金授与を行ったことも紹介しました。

その後、審議事項および投票結果の説明に移り、審議事項①の「新規代議員承認の件について」は茂木敬司役員選考委員長が、②の「新規登録団体承認の件について」は眞下クルミ学部・学科同窓会委員長が、③の「新型コロナウイルス感染拡大の継続による母校への緊急支援について」は戸川清募金委員長がその趣旨や内容を説明。それぞれの事項について事前質問はなく、すべて事前投票で可決、承認されたことが報告されました。

その後、①被頭彰者候補者の募集について、②国内地域ソフィア会支援への取り組み、③2021年度課外活動支援金贈呈式の実施、④国際委員会の新しい取り組み、⑤オリンピック・パラリンピック支援特別委員会事業報告、⑥世界大学ランキングへの協力をお願い、⑦その他（ASC開催案内）をそれぞれの所轄委員長が報告、議事は予定時刻の前の15:52には終了しました。

さらに進化したソフィア会運営を — 会員大会での会務報告に代えて

ソフィア会会長 鳥居正男

コロナ禍により会則を改訂、第20条に「会長による会務報告をホームページなどに掲載することをもって会員大会に代えることができる」との文言を加えました。対面での大会開催が難しい状況に対応するもので、2021年度の会員大会はソフィア会Webサイト（ホームページ）に掲載する形で会務報告を行いました。

■ 2020年度を振り返って

新型コロナによる制約を受けた1年ではありましたが、母校への貢献・現役学生支援を拡大しました。やむを得ず延期したイベントもありましたが、多くのイベントをオンラインに切り替えて開催しました。オンラインのメリットを活かし、海外在住ソフィアンにご登壇いただき、海外からの視聴も可能にしました。たとえば、Net de ASF、ASC、和太鼓奏者酒井奈美子さんのトークショー、ザビエル杯日本語スピーチコンテストなどです。

上智学院や大学との連携も強化しています。学院との連絡会議の定例化を通じ意思の疎通をはかり、積極的に情報を共有しています。理事長・学長をはじめとする学院・大学のキーパーソンとの定期的情報交換も継続しています。

ソフィア会の活動の中心は専門委員会ですので、主体的かつ効率的に運営していただき、ソフィア会として迅速な意思決定を行っています。たとえば、年10回の常任委員会では、参加者が事前に資料を熟読し、本番では意見交換に専念できるように運営方法を変え、会議時間を1時間程度に短縮しました。また、活動の広がりを受け、ひとつの委員会への負担の偏りを平準化するために4つの委員会も新設しました。学生支援・奨学金、学部・学科同窓会、ソフィアンズクラブ、社会貢献推進の4つです。

現役学生支援の拡大については、コロナ禍の学生に緊急支援を行うため、2020年度コロナ禍学生支援募金を実施しました。実績は9,590万338円（内訳：ソフィア会本体：6,000万円、卒業生個人：3,104万8,218円、団体：485万2,120円）となりました。

2019年度には、ソフィア会の会員念願の「ソフィア会奨学金制度」をスタート。2年間で計22名の学生に対して合計683万円を給付しました。2021年2月には、本奨学金制度の安定的な給付継続のために「ソフィア会奨学金基金」を設立しました。また、学生課外活

動支援金として、総額1,000万円を授与しています。ソフィア祭へも60万円を支援しました。ソフィア会終身会費の納入率は98%であり、維持会費も目標の350万円達成し、健全財政を担保できています。

■ 2021年度に向けて

2021年度は将来ビジョン推進2年目となります。2020年度の活動をさらに進化させ、改善して行く年とします。卒業生とのネットワークを強めます。多くの卒業生が日本のみならず海外で活躍していますので、そういう卒業生を学生に知ってもらうよう、講演や対話機会を増やして参ります。海外ソフィア会とのネットワークを強化し、海外ソフィア会に日本からの留学生をサポートしてもらうようにします。

ソフィア会との接点を持っていない卒業生が多いので、ソフィア会の登録団体に入ってもらい、イベントに参加してもらい、メールニュースに関心を持ってもらい、学生の興味を引くイベントを開催してソフィア会に関心を持ってもらい、そして卒業後もソフィア会に参加してもらい、といった取り組みを強化します。

ハイブリッドの会議・イベント運営も増やします。現役や遠方からの参加が増えますし、海外と繋ぐイベントの場合はオンラインだからこそできることが多々あります。昨年開催できなかった、金・ルビー・銀・銅祝のイベントは、昨年の2020年分と今年の2021年分を別々に対面でできるか検討しています。国内大会である信州大会は2度延期となりましたので、来年こそは開催できるよう入念に準備致します。

最後に、募金・支援について申し上げます。ソフィア会奨学金基金への一般会員からの募金においては、2029年度に基金残高2億円達成を目指して、毎年会員の皆様から年500万円のご寄付をお願いしています。基本財産1億円に、毎年ソフィア会からの予算支出分として500万円、会員の皆様からの募金目標額500万円、計1000万円を2020年から10年繰り返し、2029年までに2億円を達成する計画です。



オンライントークショー開催報告 「内なる声を聴き“撮る”」 ミラノ在住フォトグラファー 仁木岳彦さん

7月19日、オンライントークショー「世界を駆けるソフィアンたち」シリーズ企画として、ミラノ在住のフォトグラファー 仁木岳彦さんの「内なる声を聴き“撮る”」を行いました。仁木さんは1994年に文学部新聞学科を卒業、ニューヨーク州立ファッション工科大学などで写真を学びニューヨークで6年、その後ミラノに転居されすでに20年。当日は、世界各国の雑誌や新聞に掲載された仁木さんの作品を紹介しながら、ミラノ在住のいきさつなどをお聞きました。

時代と並走する写真の仕事

高校時代から写真を撮ったり文章を書いたりするのが好きで新聞学科に入学した仁木さんは、学生時代写真部に所属していました。なかでも、友達が多くて目立っていた同級生の「奈っちゃん」の写真をたくさん撮っていましたが、3年生の時に突然病気で亡くなってしまいます。その時、たいへんなショックを受け、生きた証として写真と言うのは力がある、もっと勉強してうまく撮りたいと留学することを決意しました。

N.Y. で写真を学ぼうと、出会った画廊主から「美術館だけを見て歩く時間を作って本物を知れ」とアドバイスをもらいます。世界の美術館を回るうち、フィレンツェのピッティ宮殿にあるラファエロの聖母子像の絵から揺らいた陽炎が見えたのです。これが仁木さんにとっての「内なる声センサー」で、そこからセンサーが少しでも振れるように「自分の声」を聴いて撮影をしようかと決めました。

実は学生時代ずっと、足腰に強烈な痛みがあり毎日痛み止めを飲



作品のモデルは街で見つける——仁木さんの後ろに映っている八角形の建物は17世紀にペストが大流行した時の隔離施設の礼拝堂。写真を選んだ仁木さん自身、気づかずに選び出したということですが、ミラノの大聖堂のマリア様もレイアウトされ、まるで疫病退散を願ったかのようなチラシになっていたことに驚きを禁じ得なかったということでした。

んでやり過ごしていました。それが、なぜかイタリアに行ったとたん痛みがピタリと止まったのです。さらにフィレンツェのウフィッツィ美術館のポッティチェリの「ヴィーナスの誕生」の前で感情があふれ出し号泣してしまう経験をしました。「死ぬまでにイタリアに住めるのだろうか」というほどの感情がわき、イタリアに住むことにしたといいます。

写真の仕事の魅力は、時代と並走することの楽しさです。旬な人やモノ、あるいは旬になる少し前に出会えること。そして撮影するという事は、撮るものが愛しくないと撮れないため、愛しいものが増えるということ。

また「内なる声」は、それを深めようと自分の内面の声なのか、相手の声なのか、天使の声なのか、地球意識の声なのか差がなくなってくる。「内なる声」が聴こえた時は迷いがないと語ります。さらにシンクロニシティ（意味のある偶然）というものが存在し、それも「内なる声」に由縁するのかもしれないとの話でした。

シンポジウム「ソフィアン国家公務員と話そう」を開催 —日本、世界で活躍する先輩たち—

10月25日、シンポジウム「ソフィアン国家公務員と話そう—日本、世界で活躍する先輩たち—」（主催：上智大学国際関係研究所）がソフィア会の後援により開催されました。本企画は、2016年以降毎年、藤崎一郎元駐米全権大使（元上智大学特別招聘教授、国際戦略顧問）及び本学出身の各省庁幹部職員を招き、外交官・国家総合職等を目指す学生・卒業生を支援してきたもので、今年もコロナ禍の影響によりオンライン開催となりましたが、当日は70名以上の学生・卒業生が参加しました。

鳥居正男ソフィア会会長の挨拶から幕を開け、藤崎元大使の基調講演ではご自身の外交官経験を交え、「国家公務員は、社会への貢献（公共）という点で上智大学の教育理念に沿ったものであり、特に総合職には国際機関のトップ・幹部職員への登用の機会もあるのでぜひ目指して欲しい」と語られました。

続いて合格体験報告では、国家総合職内定者の馬場健さん（2020文英）、谷田部百合子さん（2020理情報）と参加者の間で、志望動機、勉強方法、モチベーション維持の仕方、官庁訪問等に関して、同窓の先輩・後輩間ならではの熱心かつ活発な質疑応答が行われ学生の関心の高さを感じました。

後半は、主催者の上智大学国際関係研究所、安野正士所長の挨拶



から始まり、東北大学公共政策大学院の今西淳教授（元外務省大臣官房儀典総括官、1993 法法）、経済産業省・通商政策局経済連携課の北川幸恵氏（2018 法法）から、実際の政策立案過程や日本を代表して対外交渉を行う仕事の醍醐味等を中心に分かりやすく説明が行われ、さらに特別ゲストの外務省大臣官房人事課の大西生吹課長補佐を交えて、真剣な質

疑応答が行われました。

出身大学によるハンディキャップはなく、人物本位なので是非挑戦してほしいとの事で、総合職と専門職・一般職との違い、採用や働き方に関する質問が続き、時間オーバーになるくらいでした。最後に、藤崎元大使が「同じ志の仲間と一緒に切磋琢磨することが重要」と総括されました。

本企画は、「ソフィア会の将来ビジョン」における、「3. 母校への貢献・現役学生支援の強化・拡充」—「国際社会で活躍する人材の就活支援」を実施するものです。

ソフィア会は、藤崎元大使が本学の特別招聘教授だった際に発案され毎年多くの合格者を輩出している「国家総合職関心者勉強会」に参考図書の寄贈を行っております。

勉強会への参加希望者は、koumuin@sophiakai.gr.jp宛、①氏名、②学年・卒年、③学部・学科を明記の上、申込みください。

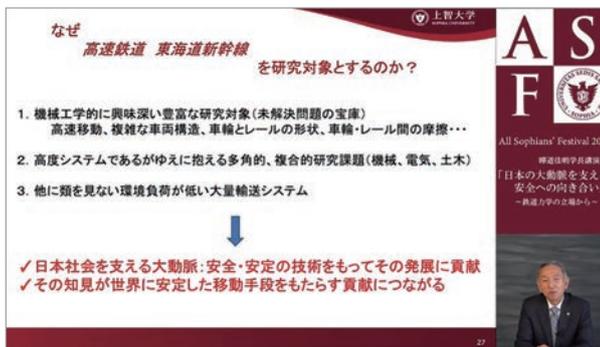
今年、3チャンネルを駆使したバーチャルASFでした より進化した形で世界に配信

VIRTUAL
ASF

今年の「オールソフィアンの集い (ASF)」は5月30日(日)。コロナウイルス感染予防のため昨年に続きオンラインでのバーチャル開催となりましたが、同時に3つのプログラムをYouTubeやFacebookで配信するなど、内容は大幅に進化。海外からも多くのソフィアンが参加し、視聴者は延べ1万人を超えました。またこの3チャンネルと並行して当日は学部・学科同窓会や各種ソフィア会などが独自のオンライン・イベントを開催するなど、盛りだくさんの1日となりました。

▶ 充実の講演会チャンネル

3つのチャンネルは「ナビチャンネル」を中心に、四谷キャンパスのASFでも定番の講演会だけを集めた「講演会チャンネル」、そして昨年のASFで好評だった、世界のソフィアンを結ぶ「Sophians around the world」で構成。



暁道学長の講演

講演会チャンネルでは10:30から暁道佳明上智大学長が登場。いつもは学長挨拶などで上智大学の現状などを伺うことがほとんどでしたが、このASFでは「日本の大動脈を支える安全への向き合い～鉄道力学の立場から」をテーマに、力学分野の日本を代表する学者としての姿を改めて認識させられる講演となりました。

続くのは、今回のASFで実行委員長を務めたフリーランス・ジャーナリストの浜田敬子さん(1989 法国、元朝日新聞「アエラ」編集長など)の講演「ポストコロナ時代の働き方」。そして14:00からは



プロデューサー加地倫三さんの講演

外葡卒で、「ロンドンハーツ」、「アメトーク!」、「テレビ千鳥」などの人気バラエティー番組を手掛けたプロデューサー、加地倫三さんの講演「なんで?から始まる番組作り。バラエティー制作はツッコミのクリエイティブ」。

いずれもさまざまな分野で活躍するソフィアンの、興味深い話を直接伺うことができる貴重な時間となりました。そして講演会チャンネルは、ASFでは欠かせないプログラムとなった晴佐久昌英神父の「コロナ禍から見えてきたこと」で締めくくりました。

▶ ソフィア会のスローガンを実現したSophians around the world

昨年のASFで一躍人気コンテンツに浮上したのが「Sophians around the world」。

世界各地のソフィアンに、太陽が地球をグルッと巡るような形でお話を伺うという、まさにオンラインならではの企画。ナビゲーターは昨年のASF実行委員長で、このSophians around the worldを企画・担当した豊田圭一さん(1992 経経)。



ソフィアンズクラブがスタジオに

ご自身でも「これまでのようなリアルなキャンパスでの開催ではなかなかできなかった“世界のソフィアンが繋がる”というように頭を切り替えた」という発想で誕生した企画で、オンラインの世界でこそ実現されると同時に、世界44カ国65都市にソフィア会がある上智大学ならではのプログラムといえます。

今年は昨年を上回る世界6つの地域をカバー。10:30からの南北アメリカから11:30からの日本、12:30からの東南アジア、そして13:30からの南アジア・オセアニア、14:30からのドイツ、イタリアなどの若手海外ソフィアン、そして15:30からのヨーロッパ・アフリカと、現地では夜だったり朝だったりという状況の中で、一人で世界23都市のソフィアンに現地のお話を伺うという形になりました。世界各地の、さまざまなソフィアンの姿が浮き彫りになりました。

▶ 準備段階からオンラインで

この2つのチャンネルをまとめるような形になったのがナビチャンネル。ASFのオープニングを告げるお祈りから最後のグランドフィナーレまで、ASFを長年支えてきた総指揮の金谷武明さん(1995 法法)とASFの総合司会としてすっかり定着した森重有里彩さん(2016 総社福)、そして今回の実行委員長である浜田敬子さんの3人が文字通りASF全体をナビゲーションするように、それぞれの進行にも目配りしていました。

今回のASFは、特に講演会などは事前収録された映像を流すケースがほとんどでしたが、それを滞りなくオンラインで配信していったのは当日ソフィアンズクラブに集まったASF実行委員会のスタッフたち。特に、ソフィア祭実行委員会などの力に負うところが多かったのですが、全体のプログラムを滞りなく進行させていったのも、このナビチャンネルだったようです。

今回のASFはオンラインのバーチャル開催となりましたが、その手法は準備段階からだったようです。打ち合わせは直前までオンラインで行われており、「1週間前になってはじめて実際に顔を合わせた」といスタッフがほとんど。コロナで緊急事態宣言が出される中でも、安全安心なASFとなりました。



全体を仕切ったのがナビチャンネル

ソフィアの 広場

ソフィア会に登録されている団体数は前回と変わらず312団体ですが、内容に少し異同があります。国内地域4団体、海外地域9団体が前期に続いて休会中ですが、その他に米国のシャーロットビルとデトロイトのソフィア会から解散の通知が届きました。二つとも2008年10月に開催された秋季全国代議員会で登録された204団体の当初からのメンバーでした。華やかだったMORTOR CITYデトロイトを懐かしむソフィアンもおられることと思います。ソフィア会の変転も新型コロナと同様に時代の流れでしょうか？

海外ソフィア会 44か国65都市に！

デュッセルドルフ・ソフィア会

開催日：2021.02.27

当会フックス真理子会長(75 文史、83 院史卒)が定期実施しているカルチャーカフェという講演会がありますが、2月27日(土)の講演会では上智大学卒業生で現在、清泉女子大学名誉教授である岡野治子先生(64 外独卒)が“男・女の関係性 - 東洋と西洋の歴史でどのように展開したか”というテーマで講演されました。



ギリシャ哲学なども交えているいろいろな宗教の歴史的観点からジェンダー解説くださり、最後に性別に関係なく立場の弱い人々を置いてきぼりにしない社会になることを願っているという言葉でまとめられました。

講演者が母校卒業生であることにより当会が共催し、各地で活躍する当会関係者も多数聴講されました。



ワシントンDCソフィア会

開催日：2021.06.24

バージニア州アーリントンにあるレストランでハッピーアワーを開催しました。一年以上、実際に会うことは難しい状況にありましたが、久しぶりに集まることができ、近況を報告し合いました。



参加された方々の中には、懐かしい顔触れもあれば、転入して初めての方もいらっしゃいました。大学院を卒業して就職された方、転職をしてキャリアを積まれている方等、コロナ禍の中でも逞しくご活躍されているソフィアンにお会いし、たくさんパワーをいただきました。

ワシントンDCとその近郊では、ワクチン接種が広がっているおかげで、ビジネスが急速に再開し以前の日常生活が戻りつつあります。このまま良い方向に進み、また以前の様に交流を深めていけることを願っています。

ニューヨーク・ソフィア会

開催日：2021.03.06

第57回年次総会を開催しました。コロナ禍の状況下オンライン形式で行いましたが、国外の会員も参加することができ、またお互いに親近感を感じる集まりとなりました。

冒頭のSunny Springer 会長(1991 外独)の挨拶に続いて2020年度の会計報告、新会長・役員選任等が行われて議事はすべて承認され、新会長には我謝京子さん(1987 外西)が選出されました。ゲストによる基調講演は、このたび国連事務総長代表兼国連コソボ暫定行政ミッションベオグラード事務所長となられた山下真理さん(1988 法国)と我謝新会長による対談。続く質疑応答と参加者近況報告は日本から参加した現役の上智大生の抱負も交えてとても生き生きとしたものとなりました。



フランス・ソフィア会

開催日：2021.04.24

オンライン懇親会を開催しました。1968年から2014年卒業まで、半世紀近い年齢差と驚くほど多様なバックグラウンドのソフィアンが集い、以下の3つのグループに分かれて懇談しました。

- ・コロナ禍でもフランス生活を楽しむグループ
- ・フランスでの子育てグループ
- ・フランスでの勉強と働き方、キャリアグループ

閉会後の意見交換では、第1回の懇親会は楽しくゆるいつながりを作っていくという意味で有意義だったというご感想を複数いただきました。また、長引くコロナ情勢のもと、今までパリ中心になっていた集まりや全体の行事とは別に、地方在住のソフィアンがフラットに参加しやすいよう、また既存のホームページを通さずに会員同士で情報発信や質問をするためにつなげるのできるプラットフォームとして、Facebookのグループページを作りました。



英国ソフィア会

開催日：2021.09.03

英国ソフィア会 ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』観劇会@シェイクスピアズグローブを開催しました。シェイクスピアズグローブとは、テムズ河南岸に1997年、当時の設計を学術的に推定し再建されたオープンエアの劇場です。英国は既に成人の9割近くがワクチンを接種済みであり、1年半以上閉鎖されていた劇場が再開したことに、参加者から喜びの声が聞かれました。



今回のソフィア会は、いよいよ秋にロンドン市内で親睦会を開催予定です。イベントやお問い合わせ、幹事に加わりたい等、いつでも受け付けておりますので、お気軽にメッセージをお寄せください！

アイルランド・ソフィア会

開催日：2021.09.25

9月にしては珍しく蒸し暑い土曜日の午後、アイルランド・ソフィア会はダブリン市内の屋上レストラン「SOPHIE'S」で約2年ぶりの食事会を開きました。



参加者6人で美味しいごはんやカクテル

をいただきながら今年世界された元会長・ウォーカー美津枝さん(1988 外灘)を偲び、またアイルランド・ソフィア会の今後についても語り合いました。

フロリダ (USA) にお住まいの「遠隔アイルランド・ソフィア会会員」の清谷さんからはワインをごちそうになりました。離れていても、つながっています。ずっと集まれなかった我々はまた近々、次の回を計画しています。

国内ソフィア会 46都道府県76団体

山梨ソフィア会

開催日：2021年5月～6月

2021年度総会は、コロナ禍の中、5～6月に郵送とメールでの書面開催の方式で行いました。

役員改選の年にあたり、新会長に橋田恭氏(1978 理機)が就任しました。2022年度山梨ソフィア会創立30周年に向け、記念事業の準備を進めることなどの事業計画を決めました。

各種ソフィア会 152団体

体育会ソフトテニス部OB会

開催日：2021.05.30

昨年のOB会総会は中止としましたが、今年度はZoomを使つてのオンライン開催を試みました。ASFと同日の5月30日に、OB14名現役16名の参加を得て、全ての事案を予定通りに報告出来ました。詳細は議事録をご参照ください。

遠方からでも参加可能なオンライン開催の有効性が確認できましたので、今後のOB会活動に活用していく予定です。来年のOB総会は対面で開催できた場合でも、Zoomでの同時配信を検討していますのでご期待下さい。

今後とも、会の活動へのご協力とご支援を宜しくお願いします。加えて毎回のお願ひですが、会費納入も引き続き宜しくお願いします。特に、総会の参加当日にOB会費納入を予定されていた方には、難しい状況となりましたので、この機会に是非振り込みへの変更をご検討ください。

SPEECCソフィア会

開催日：2021.09.11

オンラインミーティングを実施しました。議題は①公開 ZOOM「英文法 LIVE(ライブ)」の実施について ②今後の活動についての2つでした。

①「英文法 LIVE(ライブ)」は11月中旬の日曜日の午後、ASF2021の時と同じ要領で実施する。今回の問題は難易織り交ぜて10問で配信時間はおよそ1時間弱。

② 今後の活動：来年度よりYouTubeで「English Grammar Quiz for Advanced Learners」(仮称)を英語で配信し、より高度な英文法の情報を必要とする人のニーズに応える。なお、配信方法や頻度の詳細については今後の検討とする。今後YouTubeを含めSNSでの情報発信がますます重要になることが予想されます。私たちSPEECCも時代に沿ったツールを駆使して活動の拡大を図りたいと考えています。

このことを踏まえ、YouTubeの編集から配信に至るまで、Webコンテンツ作成に明るい方のご参加をお待ちしています。ご連絡は下記のメールアドレスまでお願いします。

SPEECC 連絡先は「speecc.sophia2020@gmail.com」まで。



上智不動産ソフィア会

開催日：2021.06.16

大学不動産連盟（通称：UREL）の第18回総会が、今年度の総会担当校である駒澤大学の不動産紫門会の設えにより、新宿区立新宿文化センターにて開催され、上智不動産ソフィア会も幹事メンバーを含め6名が参加しました。

本総会はコロナ禍の感染のリスクを考慮して式典のみとなり、参加人数も会場の1,000名の定員に対し250名まで限定され、検温や消毒などを徹底した安全配慮を優先した会となりましたが、様々な制約はあるものの、2年ぶりにリアルでの不動産連盟総会が開かれ、大学不動産連盟各校の代表者が一堂に集えるようになりました。

来年の理事長校は、学習院から駒澤大学へと交代。総会担当校は、駒澤大学から、慶應大学へと引き継がれることとなりました。



上智不動産ソフィア会では、コロナ禍の状況にありながらも、オンラインにて毎月、情報交換会を開いております。また同様に、季節行事や大学不動産連盟活動なども「できる形で」行っており、従来に引き続き「ビジネスにつながる不動産ソフィア会」を目指してメンバー間の積極的な交流を図ってまいります。不動産業界に関わるソフィアンの皆様、ご入会をお待ちしております。お申し込みは下記ホームページよりお願い致します。なおFacebookページも設けておりますので是非ご覧ください。

ホームページ：<http://srea.biz/>

Facebook：<https://www.facebook.com/WelcomeToSREA>



学部・学科同窓会 22団体

ドイツ語学科同窓会

開催日：2021.05.30

第8回ドイツ語学科同窓会を初のオンラインで開催しました。1960年卒業生から現役の学生まで、またドイツからも多数の参加者があり、総人数は100名を越えました。

2010年卒業生のパネルディスカッションは「30代のキャリア観」というテーマで、日独在住の3名によって行われました。これを目当てに若い世代の同窓生が多く参加し、終了後には「若い卒業生が頑張り、それぞれに成果をあげている姿に感動しました」といった声

が複数寄せられました。

また高祖敏明前上智学院理事長、浅見昇吾学科長、高橋由美子名誉教授、新倉真矢子名誉教授他のお話は本当にありがたく貴重でした。最後はいくつかのブレークルームに別れて懇談しましたが、1時間以上の長きにわたって熱く語り続けていたのは、高祖前理事長を囲む大先輩の方々でした。卒業年度、居住地に関係なく楽しむことが出来たオンラインの同窓会でした。



ポルトガル語学科同窓会

開催日：2021.07.09-11

留学生とのオンライン交流会を7月9日から11日までの3日間開催しました。留学生はそれぞれのテーマをポルトガル語、日本語や英語などの言語で説明してくださいました。交流会の最後は、参加者と留学生とお互いに連絡先を交換するなど楽しい一時間でした。

このようなカジュアルなオンラインイベントをまた開催したいと考えております。今回、参加できなかった皆様、是非、次回にご参加ください！



第30回コムソフィア賞は長野智子さんと玉川奈々福さんに 1月25日に授賞式と記念講演会

ソフィア会とマスコミ・ソフィア会が共催するコムソフィア賞（上智大学後援）は、第30回目を迎える今年、キャスター・ジャーナリストの長野智子さん（1985 外英）と浪曲師の玉川奈々福さん（1987 文国）に賞を贈ることを決めました。

授賞式と記念講演会、懇親会は2022年1月25日（火）17:30から学内2号館17階会議室で行い、またオンラインでも配信する予定です。

受賞者の長野智子さんは卒業後、フジテレビジョンに入社。アナウンサーとしてさまざまな番組で活躍後フリーとなり、ニューヨーク大学・大学院において「メディア環境学」を専攻。帰国後、夢であった報道の分野に携わり、同時多発テロ事件ではイスラエル・パレスチナ自治区、パキスタンなどで現地取材を続けた。その他、「ザ・スクープ」「サンデーステーション」のキャスターを担い、さらには、難民問題に関心を持ち、ヨルダンやケニアなどの難民キャンプを巡るなど、国連 UNHCR 協会報道ディレクターとして積極的な活動を続けています。



長野智子さん

また、玉川奈々福さんは卒業後、二代目玉川福太郎の勧めで浪曲の道へ。日本浪曲協会理事。さまざまな浪曲イベントをプロデュースするほか、自作の新作浪曲や長編浪曲も手掛け、他ジャンルの芸能・音楽との交流も多岐にわたって行っています。平成30年度文化庁文化交流使としてイタリア、スロベニア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、キルギス、ウズベキスタンの七か国で公演。中国、韓国でも公演を行いました。第11回伊丹十三賞受賞。



玉川奈々福さん

授賞式および記念講演会、懇親会

日時：2022年1月25日（火）

場所：2号館17階会議室

式典と講演会：17時30分～19時20分

（対面およびオンラインのハイブリッド開催）

懇親会：19時30～20時30分（5階学生食堂＝予定）

「オールソフィアンのクリスマス（ASC）」は12月10日です

今年第14回目を迎える「オールソフィアンのクリスマス2021（ASC2021）」は12月10日（金）。今年も昨年に続きソフィアンズクラブを拠点とするオンライン開催となります。

第一部「いのり」（19:00～19:30ごろまで）は、菅原裕二神父からのクリスマスメッセージと、ソフィアファミリーのいのりで構成。

第二部「つどい」（19:30～21:00ごろまで）は、学生団体の①上智聖歌隊、②上智大学ハンドベルクワイア、③L'arbre de Harmonie（アカペラ・サークル）、④SAfro Family（ゴスペル・サークル）。そして卒業生の①ピアニスト、作編曲家 立石一海さん、②シンガーの鈴木桃子さんが出演予定。

大学北門のツリーやソフィアンズクラブも、クリスマスに向けて飾り付けが進んでいます。12月10日の19:00、YouTube などオンラインでご参加ください。



日本語スピーチコンテスト「第3回ザビエル杯」は12月4日（土）



12月4日（土曜日）13:00～17:00、ソフィア会は上智大学の協力のもとに、日本で学ぶ留学生が参加する「日本語スピーチコンテスト」を開催します。

大学の枠を越えた交流を目指し、上智大学に限らず、日本の大学に留学している学生を広く対象としたイベントです。コロナ禍でコンテスト開催は今年もオンライン形式（zoom ウェビナー）となります。発表テーマは①10年後になりたい自分の姿、②コロナ禍（パンデミック）で見つけた私のニューノーマル、③スポーツから得た感動、の中から選択。

今回で3回目となる「ザビエル杯」は、各大学から大きな関心を寄せられているもので、日本語学習の成果を発表する場、そしてよりいっそうの国際的文化交流を実現できる場を提供しています。

安藤優子さん オンライン講演会 「後輩の皆さんへ ～ニュースの現場で働くということ～」

上智大学とソフィア会は6月7日(日) 15:00 から、安藤優子さんオンライン講演会を開催しました。学生、学生の父母・保護者、教職員、卒業生など862名が参加。事前に質問を募集したところ230の質問が寄せられましたが、その中から、当日学生3名が参加しました。

伝えたかった2つのこと

安藤さんは「今日は2つ伝えたいことがある」と話し始めました。

1つ目は、女性が働くことについて。

「自分は学生時代にアルバイトで男性社会のテレビ局にアシスタントという立場で入り、男性司会者の隣に座ってうなずき、笑顔を作る役割を与えられた。しかしそうした保守的な社会に自分が入ることでハレーションを起こした。そこで、自分は敵じゃないということを示し、同化するために女性であることを封印して居場所を確保した。それは考えてみると、女性であることに対するリスペクトに欠けている。一人の人間として自然に働ける社会を目指したいと思って今までずっとやってきた。後輩たちには、その人の個人がありようを尊重する働き方をしてほしいと願っている」

2つ目は、ジャーナリズムとは。

「なぜと問い続けること。なぜ、そのようなことが起きたのか、なぜその事件・事故は



起きたのかと問うことはその対象に関心を持つことであり、人の話を聞くことで多様性を知ることができる」

学生の質問は

続いて、学生からの質問に答えます。まず「VIP取材で心掛けていることは」。

「VIPであってもそうでなくても、取材をするときに事前準備をし、質問を用意しておくものだが、取材は相手の話を聞くことが重要なのであって、自分の質問をして、自分がかっこよく見せるためのものではない」

続いて「ジャーナリストとして一番大切な能力とは何か」。

「共感力。第三者が起こしたことを、本当に伝えたいと思いながら伝えるためには想像力を駆使し、相手やその国に思いをはせながら伝えることが大切」

最後に「これからのテレビの役割は」。

「情報の信頼性があることが重要。国内外に張り巡らせた取材ネットワークで記者が取材をして裏付けのある情報を放送していることに未来がある」

安藤さんは、そのほかの質問に対しても時間のある限り応えられました。「スクープについて」は、言葉にしない行間を読み取ることもある。「大学院に進んだ目的は」ニュースの背景になっている学術的なことを獲得したいと考えたから。そして「留学経験はどうか」については、日本の外に出て自分がマイノリティだということを知ったこと。そして「声を上げなければいけないも同然」と、その時に言われた言葉が今でも心に残っているということでした。

開催報告

「希望と、感謝と、生きる喜びと」 カーリー先生トークショー

上智大学とソフィア会の共催で開催する「恩師に学ぶシリーズ」の講演会で、4月22日(木)、上智大学名誉教授・元学長のウィリアム・カーリー先生にご登壇いただきました。カーリー先生は、学生寮の舎監を23年、聖歌隊の指揮者を25年、学長を6年歴任されるなど上智大学に深くかかわってこられました。

まずは、カーリー先生秘蔵のご両親、ご家族との写真を見せていただきながらお話が始まりました。

<生徒から学び、生徒と一緒に歩む>

1935年にフィラデルフィアで生まれ、両親から「希望を持つこと、神に感謝すること、生きる喜び」を学びます。4人兄弟の末っ子で甘えん坊。イエズス会経営の高校に通い、そこで出会った素晴らしい先生方のようにたくたく卒業する53年にイエズス会に入会。大学卒業後は外国で働きたいと考え、日本に縁があって60年来日して写真の代わりにたくさんのスケッチを描いて両親に送りました。

最初に栄光学園で英語を教えたときは、生徒が熱心で教えるのが楽しく、生徒から学び、生徒と一緒に歩んだといいます。その後、上智大学神学部に入会。67年に叙階し司祭になって、博士号をとるために渡米します。そのとき、アメリカと日本の比較文学を専攻することを決めました。

「上智大学で72年から文学部英文学科で教鞭をとり2005年の定年退職まで33年間、数えきれない良い思い出があり、幸せな生涯でした」

学生寮の舎監や、聖歌隊の指揮者、いくつもの英会話グループを開き、市ヶ谷キャンパ



ASF ではいつもグランドフィナーレで弾き語り

スの当時の国際部で日本文学を教えるようになります。それが発展し、のちに独立した学部(比較文化学部。現在の国際教養学部)となり、学部長に就任。ひとつの学部を創設するにあたって2年間、毎週のように文部省(現・文科省)に通い「日本の官僚制についてとても勉強になりました」。当時日本の大学で、4年間すべての授業を英語でおこなうというのは、画期的だったのです。

<執り行った結婚式は739組>

司祭としてクルトゥルハイム聖堂で執り行った卒業生の結婚式は739組。披露宴での弾き語りを頼まれることも多かったといいます。

上智大学の特徴の一つとして、有名人がキャ

ンパスで話をしてくれることもあげられます。

「私の博士論文が阿部公房の小説だったこともあり、何度も阿部公房に会って話し親しくなりました」

大学で講演をしてくれた時のことや、マザー・テレサの通訳をさせていただいたこと、教皇ヨハネパウロ2世、黒澤明監督、ダライ・ラマ4世、小澤征爾、名ピアニストのランランも学校にきて演奏してくれました。

「学長になって知り合ったビル・クリントンも講演会をしてくれる予定でしたが、病気でかえりませんでした。教皇フランシスコにお立ち寄りいただいたときは、朝のミサでオルガンを弾かせていただき一生忘れられない一日となりました」

99年から2005年まで第12代学長、および上智学院理事を務め、責任が重く激務でしたが、立派な教職員の協力を得て無事に終えました。

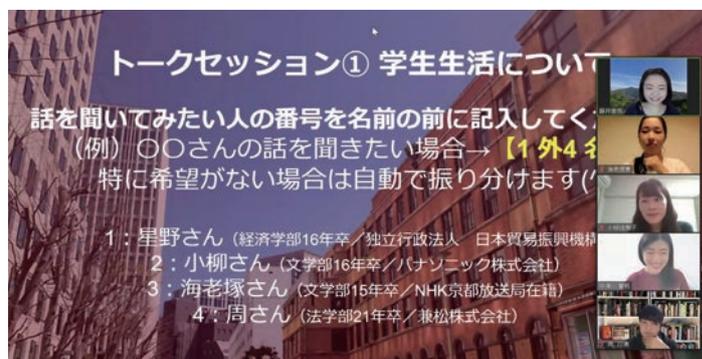
「2011年、日本の私学教育に貢献したことによって外国人叙勲(瑞宝重光章)を受章し、皇居前の広場で写真を撮っていただきました」

「上智大学 OBOG と語ろう！」 開催報告

10月23日、ソフィア会は上智大学 OBOG によるイベント「上智大学 OBOG と語ろう！」をオンラインで開催。当日は、上智大学を卒業し、現在は政府系機関、テレビ局、大手電機メーカーに勤務する3名と、総合商社内定者（既卒）1名がゲストスピーカーとなり、参加した20名の学生と交流を深めました。

1時間半のイベントでは、Zoomのブレイクアウトルームを2回設け、①学生生活について、②現在の仕事についてトークセッションが行われました。学生からは「留学したくて大学に入ったがコロナの影響で実現することができずモチベーションが下がっている」という声や、「入学してからずっとリモートで授業に参加してきたため友達ができない」、「大学時代思うようにサークル活動に打ち込めなかった」という声など、新型コロナウイルス感染拡大の影響による悩みが多く聞かれました。

これに対し OBOG は「リモートだからこそ築ける人脈もある」、「人との接点が少なくなると、自分で情報収集する姿勢が大事になるの



で能動的に動くことを意識すると良いと思う」、「コロナ禍でも悩み頑張った時間は後に人生の糧となると思う」など声をかけていました。

また、中国からの留学生も当イベントに参加し、「日本に行けるようになった時のことを夢見て日本語の勉強に励んでいる」とその胸中を明かし、留学経験がある OG と語り合いました。参加した学生からは、事後に行ったアンケートで「他のフィールドで活躍する OBOG とも気軽に話してみたい」「今後もこういう企画を計画して欲しい」という声が寄せられました。

追悼

通知を頂いた方々のお名前と卒業年次・学部学科を掲載し、個人のご冥福を祈るとともに同窓生各位にお知らせいたします。

2021年4月～2021年9月届出(敬称略)

卒年	学科略称	氏名
1928	文文	伊藤 珍太郎
1937	文独	西郷 正郎
1945	経商	若林 倫夫
1948	専新	浅沼 豊
1948	専経	澤口 秀夫
1949	専新	山下 誠一
1951	経商	加藤 裕一
1952	文英	大柳 英二
1952	経経	西島 孝一
1952	経経	友恵 安彦
1953	文哲	池田 敏雄
1953	文哲	和田 楽
1953	文英	江藤 利雄
1953	経経	萩原 文夫
1953	経経	清水 浩明
1953	経商	中島 弘
1953	聖母短厚	野波 弘子
1954	経経	福崎 良一
1955	文新	宇多 光雄
1956	経経	増田 勝夫
1957	文新	市原 信
1958	文史	朝倉 文市
1958	経経	細矢 誠
1958	経商	荒井 与志夫
1958	経商	片山 隆司
1958	経商	川田 秀雄
1959	法法	飯島 直次
1959	経経	佐々木 光徳
1959	外英	飯田 洋右
1959	聖母短厚	山口 貞子
1960	文新	吉野 拓男
1961	文史	北村 一夫
1961	外西	赤井 明郎
1961	外西	河路 浩吉
1962	法法	高木 良治

卒年	学科略称	氏名
1962	経商	常田 正之
1962	経商	新名 信雄
1963	文新	中井 敬二
1963	経経	井上 恵次
1963	経経	宮嶋 優介
1963	経経	米澤 公一郎
1963	外独	小池 和彦
1963	外仏	竹本 絢子
1963	聖母短厚	杉本 サツ
1964	文国	秋山 恵
1964	文英	山下 伸子
1964	文新	八幡 武史
1964	法法	木村 敏夫
1965	経経	那須野 克弘
1965	外英	高坂 陽子
1966	経商	佐藤 攻
1966	外英	亀田 勝三郎
1966	理機	大埜 邦治
1966	理物	岡田 和貴
1967	文英	八名 頼子
1967	経経	田中 和彦
1967	経商	佐上 信也
1968	文哲	中村 尚武
1968	文国	下田 勝利
1968	法法	高野 紘
1968	経経	星島 明光
1968	経経	中山 幹夫
1968	経経	吉河 光政
1968	理電	山野 英記
1969	経営	三船 雄司
1969	理機	木島 祐一
1970	文英	石村 潤子
1970	経経	熊田 達子
1970	理電	小出 博
1971	理化	遠藤 久文

卒年	学科略称	氏名
1971	院前紳	式 節子
1972	経営	福島 儀重
1972	理物	栗田 賢一郎
1973	経営	早川 正治
1973	経営	広沢 暁
1973	経営	飯島 誠
1975	文英	上延 常夫
1975	経経	山崎 純治
1975	外英	久保田 広美
1976	文哲	平垣 ヨシ子
1976	法法	小川 大輔
1977	文国	中村 泉
1977	経営	後藤 繁治
1978	法法	宮田 稔
1979	理機	福島 正美
1980	文哲	糟谷 俊輔
1980	文国	堀場 圭子
1980	文独	竹本 裕樹
1981	文心	中川 則子
1982	文教	中島 雅子
1982	外比	藤澤 和子
1982	理物	志村 徹郎
1983	外露	富田 成一
1984	経営	山田 達也
1985	経経	藤田 茂
1988	院前理電	二宮 光良
1991	経営	久保田 洋平
1993	文英	長倉 富貴
1993	法法	佐藤 美由紀
1993	外仏	宮崎 真由子
1995	文哲	萩田 麻子
1995	文社	岡崎 禎緒
2000	文史	奥津 裕美
2004	経営	吉田 昌宏
2005	法法	山田 純平

鳥居ソフィア会会長が 9 月期学位授与式で祝辞

「Sophia provided you an opportunity to kickstart your journey of study」

上智大学は9月期の学位授与式を、9月17日(金)午前10時から学内6号館101教室において行いました。コロナ禍の影響により、卒業生と登壇者・列席者のみが入場、父母・保証人など関係者などにはYouTubeでその様子がリアルタイム配信されました。

この9月期の学位授与式はすべて英語で行われており、今回も暁道佳明上智大学長による式辞、佐久間勤上智学院理事長の祝辞に続いて登壇した鳥居正男ソフィア会会長も英語で祝辞を述べました。

❖ 卒業は“終わり”ではない

鳥居会長は簡単に自己紹介をしたあと、本日、学生たちが迎えた「卒業」ということについて、次のように語りかけました。

「It goes without saying that graduation is a critical milestone in life. In Japanese, the word graduation translates as 'Sotsugyo,' and Sotsugyo consists of two words, namely 'sotsu' which means 'finish' and 'gyo' which means 'study.' Hence, sotsugyo can be translated as 'finish studying.' However, if you look up the word sotsugyo in a Japanese-English dictionary, you will notice that the words graduation and commencement also appear. The word commencement of course means beginning. Well, I am not here to give you a lecture on linguistics. However, I wish to remind you that you are here today, at the beginning of your extension of learning. Sophia provided you an opportunity to kickstart your journey



of study, a journey that has no end.」

卒業は単なる勉学の終わりを意味するものではなく、卒業してもその学びの旅は続くという言葉です。

❖ コロナ後の時代を見据えて

続けて鳥居会長は、コロナ禍で授業の多くがオンラインとなり、課外活動も十分にできなかったことにふれ、学生たちの努力を次のように称えました。

「Yet, despite all such hardships, you have managed to successfully complete your study, and for this I admire your dedication and strong will. Indeed, you all deserve special recognition for this extraordinary achievement.」

また、コロナウイルスで社会は大きく変化するが、それに積極的に関わる必要があると訴えました。

「This coronavirus pandemic has accelerated change, and we will never return to the pre-pandemic life. The new normal will indeed differ greatly, and you will be the drivers of this profound change. You will be the ones to actively reform society, by following the spirit of "Men and Women for Others, with Others."」

顕彰候補者 募集中!

ただいま、顕彰候補者を募集しています。

ソフィア会は2013年の上智大学創立100周年を迎えるにあたり、ソフィア会活動に顕著な貢献をされた会員に感謝を表すための顕彰制度を立ち上げました。これに基づき、2013年秋に15名、2016年秋に14名、2019年秋に13名の方を顕彰しました。これに続き今回、全国代議員会のもとに第4期被顕彰者選考委員会を発足、2022年秋をめどにソフィアズ顕彰表彰式を行うこととなりました。

ソフィア会は14万人の会員と300を超える登録団体を擁しており、皆さまの身近にもソフィア会活動の活性化に多大な貢献をされている方がいらっしゃると思います。つきましては、皆さまのまわりの顕彰候補者をご推薦下さい。

推薦にあたっては、下記項目を明記したソフィア会会長宛の推薦状(A4用紙・形式自由)を2022年1月末までに、ソフィア会事務局(被顕彰者選考委員会委員長)にお送りください。

【記載事項】

- ・顕彰にふさわしい候補者の氏名・卒業年・卒業学部学科
- ・推薦者(5名以上・連名可)の氏名・卒業年・卒業学部学科
- ・その候補者を推薦する理由



第3期顕彰者表彰式(2019年秋全国代議員会にて)

2022年度 ソフィア会年間スケジュール

2022年	2月20日(日)	2020年度各祝祝典
	2月27日(日)	2021年度各祝祝典
	3月5日(土)	地域ソフィア会代表者連絡会議
	3月28日(月)	学部・大学院学位授与式
	4月1日(金)	学部入学式
	4月2日(土)	大学院入学式
	5月21日(土) *予定	春季全国代議員会
	5月29日(日)	All Sophians' Festival (ASF) 2022
	5月29日(日)	2022年度金・ルビー・銀・銅祝式典
	9月5日(月)	ソフィアズカップ・ゴルフ大会
	9月20日(火)	9月期学位授与式
	9月21日(水)	9月期入学式
	9月24日(土) *予定	第11回地域ソフィア会全国大会2022信州大会
10月15日(土) *予定	秋季全国代議員会	
11月1日(火)	創立記念行事・先哲祭	
12月3日(土)	ザビエル祭	
12月(未定) *予定	All Sophians' Christmas (ASC) 2022	
2023年	3月28日(火)	学部学位授与式
	3月29日(水)	大学院学位授与式

訃報 (2021年春~2021年秋)

※敬称略

	福岡 耕二	上智大学元文学部国文学科教授
6月15日逝去	春原 剛	上智大学特任教員(グローバル教育センター)
4月27日逝去	岡部 眞幸	上智大学元専任教員(理工学部機械工学科)
6月17日逝去	岡村 秀勇	上智大学名誉教授(元理工学部)
7月27日逝去	高橋由利子	上智大学名誉教授(元言語教育研究センター)
8月1日逝去	中井 千之	上智大学名誉教授(文学部ドイツ文学科)
8月5日逝去	小林 章夫	上智大学名誉教授(文学部英文学科)
10月16日逝去	鈴木 誠道	上智大学名誉教授(理工学部機械工学科)

ソフィア会広報委員会

穴戸周夫(1971法法)、松本明子(1983文史)、風間烈(1965外仏)、神山恭生(1972理物)、住谷史雄(1985法法)、金谷春美(2003外葡)、船津桂(2006法国)、垣本絵美子(2015総心)、久保田弘輝(2020文新)